



<6. 29 JAL本社前での宣伝活動>

原告も、支援の代表も、JAL本社前で 解雇撤回への「熱い思い」を訴えました

6月29日、原告団はJAL本社ビル前で、支援する仲間たちとともに、解雇撤回と安全優先の経営を求める訴えをしました。うだるような暑さの中、原告だけでなく各労組の代表が、それぞれの思いを熱く訴えたのが印象的でした。（参加者140名）

～早く職場に戻り、物言える職場にしたい～

客乗原告 小森さん

昨年1月19日に会社更生法が適用されて以降、3月9日に30数年の実績のある大阪基地の閉鎖が発表されました。その後わずか一ヶ月間で退職か成田へ行くかの選択をせまられました。私は成田に行くことを決めましたが、500人中350人が退職を余儀なくされました。私はその人たちの気持ちも込めて、仕事を頑張っていました。ところが10月からフライトのないスケジュールを渡され、とても悲しく悔しい想いでいた。私は一労働者であって、経営権はありません。組合を通しておかしいことを言ってきましたが、会社は耳を傾けませんでした。なぜ私が整理解雇されなければならないのか理解できません。稻盛会長は整理解雇する必要はなかったと仰いました。それならすぐに私達を現場に戻してください。



また、稻盛会長は雑誌のインタビューで「利益なくして安全なし」と述べています。私は、1977年のクアラルンプール事故を思い出しました。当時悪天候の中、キャプテンはシンガポールに戻る判断を迫られましたが、燃料費がかさむことに懸念を覚え、クアラルンプールに強行着陸しようとして起こした事故でした。物言えぬ職場で副操縦士が何も言えなかった

と聞いています。今そういう職場になっているのではないかと懸念しています。そして、御巣鷹山事故では、「絶対安全」が約束されました。

安全を蔑にするような発言は許せません。私は一刻も早く職場に戻って安全な日本航空を築いていきたいと思います。これからも応援をよろしくお願い致します。



今のJALは「利益あっても安全なし」稻盛会長が、社員を幸せにしたいと仰って日本航空にいらしてから一年半が経ちました。皆さん一年半前より幸せですか？今現場では毎日のようにトラブルが発生しています。稻盛会長は「利益なくして安全なし」と言いましたが、1884億円は利益ではないのでしょうか。一体いくら利益を出せば安全を担保するために使って頂けるのでしょうか。今の日本航空は「利益があっても安全なし」です。早くそのことに気付いてほしいです。「土俵の真ん中で相撲を取る」という言葉は、京セラでもJALでもフィロソフィーに書かれています。ご自分でできることを書いたフィロソフィーは絵に描いた餅です。私たちはずっと土俵の真ん中で待ち続けています

客乗原告 斎藤さん

～日本航空の違法体質を何としても変えたい～

私はこれまで日本航空の分裂労務政策を何とかしたい、客室乗務員の職場に組合は二つ要らないと頑張ってきました。この間に経験した123便事故では「絶対安全の確立」が約束されました。そして「公平な人事」「労使関係の正常化」も謳われましたが、その経営陣は一年半で去ってしまいました。その後客室乗務員の職場では昇格差別、組合の脱退工作が続きましたが、整理解雇された私たちは頑張っていました。2007年2月に監視ファイルが発覚しました。JALFI組合と会社が一体となって、全客室乗務員のすべてにわたって情報をファイルしていました。会社は一回目の裁判で「認諾」し逃げてしましましたが、私たちは昨年の10月に全面勝利を勝ち取りました。しかし会社もJALFI組合も一度も謝罪していません。そればかりか被告であったJALFI組合の委員長はじめ5名を、経営破たんの中で昇格をさせました。現在、契約制の雇止め裁判も行われています。この中でも管理職が第一次考課者の内容を改ざんしたことがわかりました。この管理職は退職しましたが、会社は説明や謝罪もなく、和解交渉にも応じてきませんでした。私達整理解雇された者は何ら悪いことをしたわけではありません。こうした会社のやり方を変えるために皆さんのご支援ご協力をお願い致します。

客乗原告 飯田さん



社員の痛みがわからない経営者はいるない

経営者の皆さんにはコンプライアンスと言いながら、自分たちはどうですか。社員にはばかり求めて何にもできない経営者なら誰でも出来る。社員の痛み、苦しみのわからない経営者は必要ない。社員の首を切って、便数を減らして満席運航で黒字を出す?それだったら誰でも出来る。

私は退職強要面談でパイロットを捨てる覚悟で、給料なしでいいから雇ってくれと言いました。管理職の返事は「それでも固定費がかかるからね」でした。こんな気高い愛社精神を踏みにじった経営者は許せない。今全国の仲間が応援してくれています。更にはILLOなど世界からも支援されています。

勝つまで頑張ります。

乗員原告 森本さん

お金儲けよりなぜ安全が大切か

京都に行ってきましたが、稻盛会長の素晴らしい功績が残っていました。さまざまな肩書きとともに、紫綬褒章まで受けて、更には200億円の私財をなげうって、稻盛財団を作りました。財団を作るとき、「人の為世の為、役立つことは最高の行為である」と言ったそうですが、やっていることがあまりに違います。

ある本に「失敗から目を背けたり隠そうとしたりすれば、同じ失敗を繰り返し、新たな失敗を生む」とありました。羽田沖事故や御巣鷹山事故等、私は稻盛さんより、人の死を伴う事故を多く経験してきました。

なぜ安全が必要なのか。お金儲け優先の経営者にはわからないかもしれません。現場がどれだけ頑張っているかわかってほしい。最後に一言、「厳然とただひたすらに正しい道を進むならば、何と幸せなことでしょう。」

乗員原告 池田さん

利益の為なら、労働者を犠牲にしてよいのか

～皆さんのたたかいは空の安全を守る大義がある～

今こそ大企業の利潤追求のため、安心安全が危ぶまれているときはありません。

大震災の時、私達区役所で働く公務員は待機命令を受けました。私達は区役所の施設に泊まることにより、住民の皆さんの安全が保たれました。ここに公務労働の役割があります。しかし市町村合併で、職員は減らされ、施設や病院は統廃合されています。「官から民へ」、「構造改革」が被災地の復興を遅らせています。現在、公務員の給与10%カットが攻撃されています。震災は口実でしかありません。仮に10%カットで3000億円の震災対策費が捻出されたとしても、結果的に5000億円の税収不足になります。皆さんの闘いには大義があります。それは労働者の生活と空の安全守ることです。皆さん頑張ってください。最後までともに頑張りましょう。

品川区職労 米山委員長



～利益の為なら首切りをしてもよいというのは許されない～

双方の主張が尽くされ、9月からいよいよ証人尋問に入り、異例のスピード審理となっています。私たちは裁判の中でJALの解雇が絶対許されないものだと論証してきました。

今回の解雇は整理解雇の4要件をはじめとする労働のルールに対する挑戦です。JALは昨年1500億円という最高の利益を上げていたにも関わらず、165人の首を切った。しかも長年会社に貢献してきたベテランから切るという、恩知らず恥知らずの話です。

さらに2010年度の利益は更生計画の3倍もの1884億円を儲けた。京セラの昨年の利益は1500億円でJALはそれを300億円以上上回っている。

これだけ見てもあり得ない整理解雇で、9月の証人尋問で稻盛会長の尋問が実現すれば法廷の場で聞いてみたいのです。それではなぜ解雇をしたのでしょうか。それは企業再生を利用して利益を上げていく、その為なら何をやってもよい、首切りもできるという実績を作るのが狙い。そのためには物を言う労働者、労働組合を排除するという考え方の下で行われた解雇です。

利益の為なら労働者の生活、仕事への誇り、空の安全を犠牲にして構わないというやり方は認められません。司法の場で糾弾されなければなりません。この裁判は皆さんの生活と権利をかけた闘いであると同時に、日本の雇用や労働の在り方が問われる裁判です。

旬報法律事務所 今村弁護士

大企業の横暴は絶対に許さない

～利益のためには地域も労働者も犠牲にする大企業の横暴は許せない～

今朝、宮城県多賀城からやって参りました。震災被害を受けたソニー仙台テクノロジーは、事業縮小によって、正社員280名を遠方配転、期間社員150名を雇止めしました。小さな子供を抱えながら、年収270万円、職も家も奪われる。ソニーのハワード会長は昨年の年収が8億6千3百万円でした。社会的にも絶対に許されません。

ソニーの被害は全部保険で賄われるにも関わらず、弱い者から切っていく。未曾有の大震災ですら、利益のために地域も労働者も犠牲にするという大企業の横暴があります。そこにJALと共に通するものがあると思います。期間社員22名がソニー労働組合に加入し、闘っています。人間として大事にされる。そのため闘っています。

ソニー労組仙台支部 松田委員長



～教え子の未来のためにもJALの解雇を許してはいけない～

7月1日から高校生の就職戦線が始まります。リーマンショック以降求人がずっと減っています。震災の影響を考えると本当に心配です。若者が社会に踏み出す一歩のところで、就職難という大きな壁にぶつかってしまう。自分は社会に必要とされていないのではないか、自分に力がないからではないかと自分を責める。こうした若者が希望を持てない社会を何とかしたい。大企業は地域の労働者のおかげで繁栄してきたわけですから、こんな時こそ社会的責任を果たすことが求められています。やっと就職しても、何と人間扱いされていない職場が増えていることでしょう。なかでもJALの解雇は許せません。ルールを守らない理不尽な解雇がまかり通るなら、日本の企業全体に影響を及ぼしてしまいます。

会社の宝物のような労働者を大切にしない、人間を部品のように扱うJALのやり方を許してはいけないと思います。稻盛会長の「利益なくして安全なし」は本当に怖い言葉です。運輸業として一番大切なものを忘れてはいます。JALの皆さんのが安心して働けてこそ、乗客の安心が保たれると思います。JALの解雇がまかり通る社会に、私達教え子の未来はありません。教職員の責任としてこの闘いに力を尽くすことを表明します。

全日本教職員組合 長尾副委員長